説教分析の手順

2026.7.30

吉村和雄

はじめに

これは説教分析のマニュアルではなく、説教分析をする者の自己訓練のための資料である。説教によって、適用するのにふさわしい項目とそうでない項目があるので、すべての項目を適用する必要はない。

１、説教を聴く（原稿だけの場合は音読する）。

①他の説教者の説教を分析する場合、自分以外の説教者が、自分の知らない聴き手に語る説教であることを考慮しつつ説教を聴く。聴きながら、心に残った言葉、わかりにくかったところ、気になったところを書き留める。初めから批評的にならないように気をつける。

②聴き終えてから、最初の出会いの体験（第一印象）を記録する。そこで起こる反応の過程を把握し、吟味する。プラスの反応とマイナスの反応、理解できたか、できなかったかなど。できれば自分以外の何人かにも説教を聴いてもらい、第一印象を集める。

③複数の印象が集まった場合は、それらを総括し、全体としての印象をまとめる。

参考：第一印象には、以下の三種類がある。
- 批評的印象・・・説教がどうだったかを述べる。（よくわかった、聞き取れなかったなど。）
- 内容的印象・・・説教から聞き取ったことを述べる。（〇〇の話を聴いた、など）
- 応答的印象・・・自分の中に起こったことを述べる。（励まされた、慰められたなど）
- 説教の内容によって印象が批評的になったり応答的になったりする。

２、基本的な問い

①この説教は、どのような説教なのか。

・講解説教か、主題説教か、即テキスト説教か

講解説教･･･ある範囲の聖書テキストを、その構造に従って説く説教

主題説教･･･ひとつの主題を、いくつかのテキストを手懸かりに説く説教

即テキスト説教･･･短いテキストから、主題を展開して説く説教

・講解説教であれば、解説的講解説教か、主題的講解説教か

解説的講解説教･･･テキストを説き明かしながら、学ぶべき教え、教訓を語る説教

主題的講解説教･･･読み取った主題を、テキストの構造に従って展開する説教

・説き方は、演繹的か、帰納的か、あるいは両方を用いているか。

演繹的･･･中心となる使信を、説教者が順次具体例へと展開していく説教

帰納的･･･聴くべき使信を、具体例を挙げつつ聴き手が見つけ出すように導く説教

・説得の構造は、論理的構造か、物語的構造か、複合的構造か。

論理的構造･･･説教の各部分が論理的につながって、聴き手を説得する説教

物語的構造･･･全体がひとつの物語になって、使信をイメージとして伝える説教

②説教者は聖書テキストに対してどのような姿勢でいるか。

・聖書学者のように、聖書の解説をしつつ教訓や教えを語ろうとしている。

・預言者のように、テキストの使信を自分の言葉で語ろうとしている。

・語り手として聖書の世界に聴き手を招き入れ、キリストを体験させようとしている。

・証言者として、今生きておられるキリストを証ししようとしている。

③説教者はこの説教で聴き手に何を語り、どのような出来事を起こそうとしたのか。

3、分析の方法を決める。

(1) この説教の問題、あるいは特色を明らかにする。(後述の「チェックすべき点」を参考に)

①聖書の捉え方・・・聖書が告げる福音の真理を正しく聴き取り、解釈しているか。

②聴衆の捉え方・・・聴き手を正しく捉え、解釈しているか。聴き手の創造的発見があるか。

③言葉の整え方・・・聴き取られた福音が、今ここにおいて会衆に告げられるべき神の言葉として、ふさわしく整えられ、告げられているか。

(2)この説教の課題あるいは特色を浮き彫りにする分析の方法は何か。

①説教の論理構造を明らかにしてみる。(段落ごとに、何をしているかを問う)

②四つのことば(テキストの言葉、説教者の言葉、聴き手の言葉、神の名による言葉)を色分けしてみる。

③鍵になる言葉を見つけ出してみる。

④説教全般の言葉、語り口を分析してみる。

(3)上記1－③で明らかになった第一印象について、以下の考察をしてみる。

①説教者はここで何をしようとしているか。

②1－③のような印象(総括された印象)が残ったのはなぜか。

③そこから、説教者と聖書の関係、会衆との関係について、何が見えてくるか。

4、上記の分析から、どのような説教の改善提案、もしくは説教者へのアドバイスができるか。

チェックすべき点

①聖書を説いているか

・聖書本文が丁寧に読まれていたか
・本文の文脈が無視されていないか
・説教者の思想や主張が、本文に押しつけられていないか
・本文の中心が説教の中心になっていたか
・旧約・新約全体の証言との関係が意識されていたか
・本文から福音が聞こえていたか
・本文を単なる出発点にして、別の話をしてないか
・聖書の言葉より、説教者の経験談が中心になっていないか
・道徳的教訓だけで終わっていないか
・心理的慰めだけで終わっていないか
・社会批評だけで終わっていないか

②福音を語っているか

神の恵みが語られていたか
罪の現実が正しく扱われていたか
悔い改めへの招きがあったか
キリストの十字架と復活に根ざしていたか
聞き手を自己改善だけに追い込んでいないか
「あなたが頑張れ」ではなく、「神が何をしてくださるか」が語られていたか

③神学的に健全か

神についての語り方は聖書的か
人間理解は適切か
罪、恵み、信仰、教会、救いについて偏りがないか
キリストの位置づけが中心的か
聖霊の働きが無視されていないか
教会の信仰告白と矛盾していないか
神が単なる道徳の監督者になっていないか
キリストが模範だけにされていないか
信仰が努力主義になっていないか
恵みが安易な慰めになっていないか
教会が個人の信仰生活の背景にすぎないものになっていないか

④聴き手との関係において

会衆の現実が理解されているか
苦しみ、罪、疑い、喜びに届いているか
特定の人々を不用意に傷つけていないか
抽象的な話に終わっていないか
現代の生活と聖書本文が結びつけられているか

聞き手が御言葉の前に立たされているか
慰め、悔い改め、信仰、希望への招きがあったか
聞き手が自分の生活へと遣わされる方向があったか
説教の後に祈りが生まれる内容だったか
単に知識や感動を与えるだけで終わっていないか

⑤説教全体の構成について
導入は自然だったか
本論の流れは明確だったか
論理の飛躍はなかったか
結論は福音的に閉じられていたか
各部分が中心主題に仕えていたか
余分な脱線が多くなかったか

⑥言葉と表現について
言葉は明確だったか
専門用語が説明なしに使われていないか
比喩や例話は適切だったか
感情的操作になっていないか
美しい言葉が内容を隠していないか
聞き手に届く具体性があったか
抽象語が多すぎないか。
例話が長すぎて本文を覆ってしまっていないか
説教者自身の体験談が中心になっていないか
会衆を責める言葉が多すぎないか、逆に安易な励ましが多くないか